

×

i33-2

才四

一医



新報

説

薬物学部

富士川文庫

900

F 4
イ-104

漢學緒言

我國近世醫學一變已漢天去
即洋書就夕是於于力西洋
諸家信新著陸續舶輸及心
久枚奉因此二處不與至無以
遠久海外人教師力延其其學
術又親炙研究不豈困開明人
鴻澤大ヲ不ヤ然下虽凡其地

490.5

Ih-2

4

No. 2087

12 33-2

僻遠或ハ都下ニアルレドモ事
 業多端人モノ又貧困ニシテ
 学質ニ乏キ者皆遺憾ナキ
 能ハス不_レ因_テ今西洋現在諸大
 家ノ説ヲ纂輯譯述シ最モ簡
 明切當ナ_ルモ人ヲ采_リ之ニ加
 ルニ皇國支那ノ説ヲ以_テ凡
 實学○禪益アルモノヲ志ス者一○實ナシナシ然ラバ度此ノ書ヲ

繙カバ殆レド遺憾ナカ_ルベ
 し先ヅ茶劑学ヨリ始メ劑點
 ヲ加ヘ茶兌モテ世ニ向_フ諸
 学科ノ如ク追次印刷スベシ
 此書營ニ医家ニ便ナ_ルノモ
 ニ非ス茶舗ヲ業トスルモノ
 毎_ニ讀_ミテ有益尠ナカラス
 若_シ校_正錯誤_ヲラバ讀者請

△ニ学都

大邑僻

フコシヲ訂正也
社長識

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 書會, 醫, 藥, 師, 等）

一医範新説

曼陀羅

葉

効分陀

曼陀羅

○曼陀羅

二倍強

全ク

ガ
ル
ヲ
以
テ
其
主
治
モ
マ
タ
コ
シ
ニ
同
ジ
音
時
ハ
効
用
ノ
區
別
了
ル
コ
ト
ヲ
細
ニ
試
閱
セ
ボ
心
ニ
依
テ
交
換
シ
テ
用
ヒ
或
ハ
合
和
シ
テ
用
ヒ
タ
リ
乙
ガ
近
時
ハ
効
用
ノ
異
ナ
ル
曼
陀
羅
ヲ
驗
知
セ
シ
故
ニ
曼
陀
羅
ヲ
賞
用
セ
ス
甚
若
ク
主
張

ス
然
レ
ト
モ
曼
陀
羅
ノ
効
力
ハ
神
全
性
ノ
喘
息
及
ビ
痰
壅
性
ノ
咳
嗽
ニ
對
症
茶
ト
ナ
ス
恐
ク
ハ
肺
部
ニ
分
布
ス
ル
迷
走
神
全
人
知
覺
支
ノ
刺
衝
機
ヲ
沉
靜
ス
ル
ニ
因
テ
治
ス
ル
ナ
ラ
シ
此
症
ニ
与
ル
ニ
ハ
曼
陀
羅
葉
一
片
ヲ
以
テ
小
キ
卷

烟花ヲ造リ罽ルニ葉トモヲ以て
草ルヲ以て妨テ包ニ被テ常ノ如ク吸
ハニ然レトモ注意セズ
多ク吸フトキハ中毒志ヲ
発ス又夕内服ニ主トルト
キハ瞑眩ノ機遅ク且ツ其
度詳明ナラズ音日ハ精神
錯乱ノ忘ニ專用セリ近來

ハ然ラズ神明昏冒シテ耳
邊ニ人ナキニ語了ル也^ガ如
ク聞ユ眼前ニ物ナキニ在
ルカ^カ如ク視ル者ニ^カ迷ニ
主トル

以下曼陀羅劑ヲ示ス

(二)曼陀羅越莖ス方
右新鮮ノ葉ヲ以テ熬劑ト

大不法ハ莫若越数斯情同

用量ハ一回分氏斤六乃

至一ケレハ壹厘
六毛六強ナリ三分ハ一ヲ

一日ノ極量ハ二ハ半ヲ

与ルトキハ定量ニ過ク故

ニ記スハ註スルハ也

三曼陀羅丁方酒精十分

曼陀羅子一分ハ酒精十分

右丁方法常ノ如ク曝ス工

下十四日ハ神在ハハ也

所用量壹回十滴乃至二十

滴一日三回与フハ傳説法天

三曼陀羅子及口葉切諸大

内服ニ葉丸散ハ大石外用

ハハ麻酔ノ蒸漏劑下并ハ也

用量 一回 齒子 以半 氏乃

至 一 氏葉 以 一 氏乃 至 二 氏

三 一 氏日 人 量 以 四 氏 上 記 入

附錄 (皇國名)

子 ウセ 乙 丁 子 加 木 魚 ヤマ

太 大 乙 新 子 乙 乙 新 子 加

三 氏 曼 子 羅 ヤ マ ラ 子 ウ 新 子 加

藤 加 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

支 那 名 佛 花 顛 茄 陶

陀 羅 草 所 風 茄 兒

曼 陀 羅 法 華 經 曰 佛 說 法 天

雨 曼 陀 羅 花 上 蓋 乙 梵 語 大 子

乙 此 品 野 生 了 子 又 春 時 種

下 不 者 了 子 葉 人 形 子 茄 葉

二似テ刺無ク互ニ生シ邊ニ
三或ハ五ノ尖アリ色碧ニ
高ハ二三尺枝ノ形モ亦夕茄
ニ同シ晩夏初秋ノ間枝葉ノ
又殷ニ白花ヲ開ク形子牽牛
花ノ如クハ長大端ニ五尖
アリ其本ハ箇ニ長ハ三寸
許花朝開キ夜合ヒテ後実ヲ

結ハ大ハ一寸許擡田ニカ茄
ノ如ク外面ニ了拐アリ内ハ
小子ハ田扁ニ又黒色褐ヲ帶
晩秋ニ至テ根苗共ニ枯ル
味 臭素加里 一名フロロムカリス
ブロマイトポッターズ
○臭素加里ハ其性ハ
トノ結合ニハ白色ヲ透明ナ
ル穀子状ノ結晶体ナリ水及

酒精ニ溶消シ易シ近年医
業ニ供用ル者ナリ氏諸家ハ
試験ヲ歴テ効カノ尤モ廣ク
知ルヲ得タリ敢テ異説ヲ
論述スル者ナク咸ク活用萬
化ヲ辨明スル人モ然シ氏諸
説ヲ枚挙スルニ違ラズ依
テ効用ノ概ヲ摘載スル品也

直ニ知覺運動神至ノ力ヲ麻
痺セシメ終始トモニ亢奮ヲ
ナサズ單ニ腦ニ通スル反射
機能ヲ主ル神至ヲ麻痺セシ
ム中量ヲ与フシハ反射機能
ヲ鈍ク大量ヲ与シハ機能ヲ
閉塞スル候存候ハ前野氏
建體作用ヤマイナキ人
ニコ、ロムル法ハ小量ハハ乃至
ハハ内

服スルハ片ハ舌上ニ苦呆ヲ覺
 胃ヲ刺戟セテ消化ヲ盛ニ
 不故ニ胸次舒テ飲食ヲ進
 三欲ル所ニ充テ如ク反復
 之ヲ用シハ咽喉ノ反射運ノ
 感覺ヲ鈍不故ニ咽喉鏡ヲ用
 ルニ舌根ニ觸レテ散テ嚏ハ
 不脈度減退シ血壓反テ増シ

依テ尿量ヲ多ク不長ニ
 中量至十六乃此ノ量ヲ与ル
 ハ反射ノ麻鈍ハ前量ヨリ一
 層強ク骨節緩更ニ身體倦怠
 力乏ク起止スルニ懶ク生殖
 器ノ機能モマタ鈍ク不故ニ
 男子ハ春情踈ク至萎痿ト
 女子ハ經水ヲ減不

天量乃至半此量ヲ与フルトキ
 ハ反射機能耗悴ニ咽喉ニ物
 ヲ抵觸スルトモ更ニ感也ス
 皮膚ノ感覺ハ人毎ニ異同ヲ
 シニ概化鈍クス諸筋ノ機能
 縦ニ陰谷痿へ神思畏昧視聽
 トモニ爽ナラズ頭部厥重ニ
 尋テ腫ヲ催シ渾身ノ溫度降

下

医事効用ニモテ臭素加里ノ

効用ハ反射機能ヲ鎮静スル

シ主トシ薬トス

一ニ上ニシテフニト癩癩ハ其起ル

形ヲ以テ名クル者ニ其原

因種々アリ此品ハ腦ノホ

ス川口リトシハ邊ニ障礙アリ

テ反射機能尤進スルニ因テ
起ル者ヲ治ス然レトモ一回
与テ全愈スル者ハ稀ナリ或
ハ病勢ヲ緩慢ニシ或ハ病勢
ノ斯ヲ延テ尋漸痊安スル者
アリ一説ニ少量ヲ數回与ル
トキハ反テ端ニ其根ヲ刈テ
痊可スト云フ

用量ハ一回一刃一スクルルハ乃至

二刃ヲ一月二回与テ

三舞蹈病ニ又反射機

能尤進ズリ起リ一歳日

コテハ兒ニ奉ル者ハ幸

鬼録ヲ免ト雖モ難治ノ症

ト生然益更難治ト云

用量ハ一回ニ及乃至

目三三回与
 (三)生殖器反射機尤進
 統了効了婦人崩漏日久
 心止了心尤効了
 愈^忘反射機ノ尤進子宮内
 筋纖維及心小動脈弛緩
 心トニ因了起心者尤り此
 動脈ノ血壓了隆ニ
 心

二似夕し其効ハ脈管運動
 神至了刺衝了脈管ヲ收縮
 心了心依了血壓了隆ニ
 心如欠了了心
 了增加了非不唯弛緩
 了子宮ノ血管ヲ收縮了
 了以了經血崩下了了止了
 用量ハ一回十回乃至

二 十 五 一 日 二 回 与 丸 八 至
 可 淋 病 小 便 點 滴 短 澀 且 茎 中
 痛 之 反 射 尤 進 不 止 機 二 乘 已
 睡 中 二 陽 道 縱 挺 已 爲 三 醒 回
 已 了 收 了 不 堅 臥 已 了 收 了 七
 已 了 欲 已 了 還 了 縱 挺 了 倍 已
 睫 交 已 了 能 已 了 者 三 中
 量 了 臥 二 臨 在 前 半 時 或 已 一

時 之 頃 二 其 半 了 服 已 牀 二 投
 已 了 又 半 了 服 不 已 片 已 睡 裏
 縱 挺 了 憂 了 久 熟 寢 不 又 反 射
 機 尤 進 二 因 了 思 子 已 遺 精 女
 子 已 夢 交 等 了 忘 了 矣 已 了 治
 不 已 了 已 了 已 了 已 了 已 了 已 了

用 量 已 一 回 一 丸 乃 至 一 了 了
 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了
 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

五、喉頭ノ刺衝機疾敏ニノ咳
不量者或四五小兒百日咳ヲ主
トスル及射機九進石心機ニ東也
用量ハ一回ニハ乃至四ハ一
月ニ回与フ此量ハ多ト雖此
小兒ニ与テ妨テ及テ奇効
ヲ奏スルハ射機ハ射機ニ
六、及射機能ク九進ニ射機
ヲ

痰ハ此喘息ヲ治ス他ノ原因
ヲツケテ痰ハ此者ハ治セズ
用量ハ一回十ハ乃至一ハ
一日三回与フ
七、咽喉ニ知覚疾敏ノ憂了ツ
テ茶汁吞嚥ニ難キ者或ハ咽
喉鏡ヲ用ルニ便ナラズハ
ニハ中量ヲ用テ其機ヲ鈍麻

世に於ては施術に堪ふ然
に瞑眩の期に長力を
有服す止むに及射機頓
平不効に味受病難及
用量は一回一刃ツ、二
頻々服す一回十刀六
八悪阻胸中憤悶四肢
昏眩に食臭茶氣ヲ聞
く

ヲ悪む吐甚く水穀不
入は下ヲ阻み延綿日ヲ
死に至る者アリ昔時ヨリ
衆医技ヲ罄す下虽氏紀綱
射手ヲ拮する斃ヲ待
近時此症に及射機能
危ふる者ニ其機能ヲ鎮
不るに此茶專す下

明七已... 瀨... 此者...
用... 量... 回... 共... 乃... 至... 十... 回...
日... 三... 回... 食... 前... 禁... 一... 時... 隔... 五...
... 服... 後... 時... 間... 隔... 不... 食... 不... 凡...
... 効... 大... 甚... 凡... 音... 却... 日...
无... 婦... 人... 每... 晨... 起... 后... 涎... 沫... 又... 飲...
吐... 不... 凡... 者... 凡... 此... 藥... 溶... 液... 凡... 枕...
... 効... 大... 甚... 凡... 音... 却... 日...

邊... 備... 入... 覺... 神... 隨... 了... 頓... 服...
... 食... 了... 後... 凡... 吐... 不... 凡... 者... 是...
... 食... 前... 服... 其... 凡... 可... 已... 或... 凡...
... 消... 化... 機... 凡... 補... 佐... 凡... 効... 了... 凡... 或...
... 貧... 血... 忘... 凡... 飲... 食... 消... 化... 凡... 難...
... 者... 是... 凡... 口... 凡... 合... 用... 凡...
... 或... 凡... 單... 用... 凡... 胃... 凡... 疾... 敏... 鎮... 墜...
... 消... 化... 凡... 盛... 凡... 能... 凡... 食... 凡... 進...

山前山... 南量... 者又過... 了... 其... 經期... 將... 近... 了... 項... 苻... 草... 留... 怖... 力... 捏... 粉... 留... 怖... 力... 捏...

〇苻草... 野... 生... 不... 心... 宿... 根... 人... 蔓... 草... 子... 實... 採... 粉... 末... 子... 花... 中... 子... 兒... 黃... 色... 細... 粉... 香... 氣... 竄... 烈... 味... 峻... 苦... 呂... 呂... 其... 花... 毛... 節... 以... 籬... 過... 得... 心... 所... 粉... 末...

心ヲ麻子ニ麻酔ノ効緩ニ
其トツハ麻酔ノ効緩ニ
美ニハ麻酔ノ効緩ニ
釀ニハ麻酔ノ効緩ニ
健體作用ニ中等ノ量ヲ
服スルト其ノ口舌苦柔ヲ覺
々唾液ノ分泌ヲ増シ胃液ノ分泌ヲ
温煖ヲ壯興シ胃液ノ分泌ヲ

マタ熾ニシテ腸間ニ及ニ胃
部ヨリ小腹ニ温氣ヲ生ス
量ヲ用ルト其ノ知覺神至ノ
機能又腦ノ機能鈍ク諸筋ノ
機関モ亦夕弱ク神思冒昧四
肢懈怠スレ此散テ頑麻セズ
須臾モ常ニ復ス麻酔ノ効
カハ阿片印度大麻等ニ類似

瘵棄	他	二	月	患	一	少	不
不	二	從	事	男	醫	睡	儿
不	對	音	過	界	事	之	下
不	症	小	多	陰	効	促	所
不	茶	使	及	茎	用	ス	虽
不	了	用	心	縱	<small>ヤマヒヤル</small>	人	氏
不	止	セ	期	挺	<small>ニモチユル</small>	法	催
不	ヲ	力	ヲ	及	生	殖	睡
不	以	現	懲	心	益	益	在
不	至	全	者	所	益	益	効
不	更	心	等	遺	益	益	ハ
不	三			精	益	益	弱
不				女	益	益	効
不				子	益	益	ハ
不				諸	益	益	効

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher, but appear to be organized into approximately 10 columns.

